

2023年度業績予想の修正、 2024年度業績見通しに関する 説明会

2024年5月1日

住友ファーマ株式会社 代表取締役社長 野村 博

■ 将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標などが記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通しなどが記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2024年3月期通期連結業績予想数値の修正

	売上収益	コア 営業利益	営業利益	親会社の所有者に 帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
2024年1月31日	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
発表予想 (A)	317,000	△134,000	△156,000	△141,000	△354.90
今回修正予想 (B)	314,600	△133,000	△354,900	△315,000	△792.86
増減額 (B - A)	△2,400	1,000	△198,900	△174,000	—
増減率 (%)	△0.8	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期)	555,544	16,364	△76,979	△74,512	△187.55

総額1,809億円の減損損失をコア外に計上

- ✓ マイフェンブリー 特許権 \$923M (1,335億円、\$ベースで93%減) を減損
- ✓ 北米事業 のれん \$248M (359億円、\$ベースで10%減) を減損
- ✓ rodatristat ethylおよびEPI-589等の開発中止 仕掛研究開発 106億円を減損

事業構造改善費用87億円をコア外に追加計上 (合計301億円)

■ 2025年3月期業績見通しおよび配当予想

2025年3月期の連結業績見通し：

売上収益 3,380億円（前期比 234億円増）、コア営業利益 10億円（前期比 1,340億円増）は、前期より改善の見込み

- ✓ 北米での基幹3製品（進行性前立腺がん治療剤「オルゴビクス」、子宮筋腫・子宮内膜症治療剤「マイフェンブリー」、過活動膀胱治療剤「ジェムテサ」）の売上収益拡大
- ✓ 販管費・研究開発費の合理化

2025年3月期の配当予想：

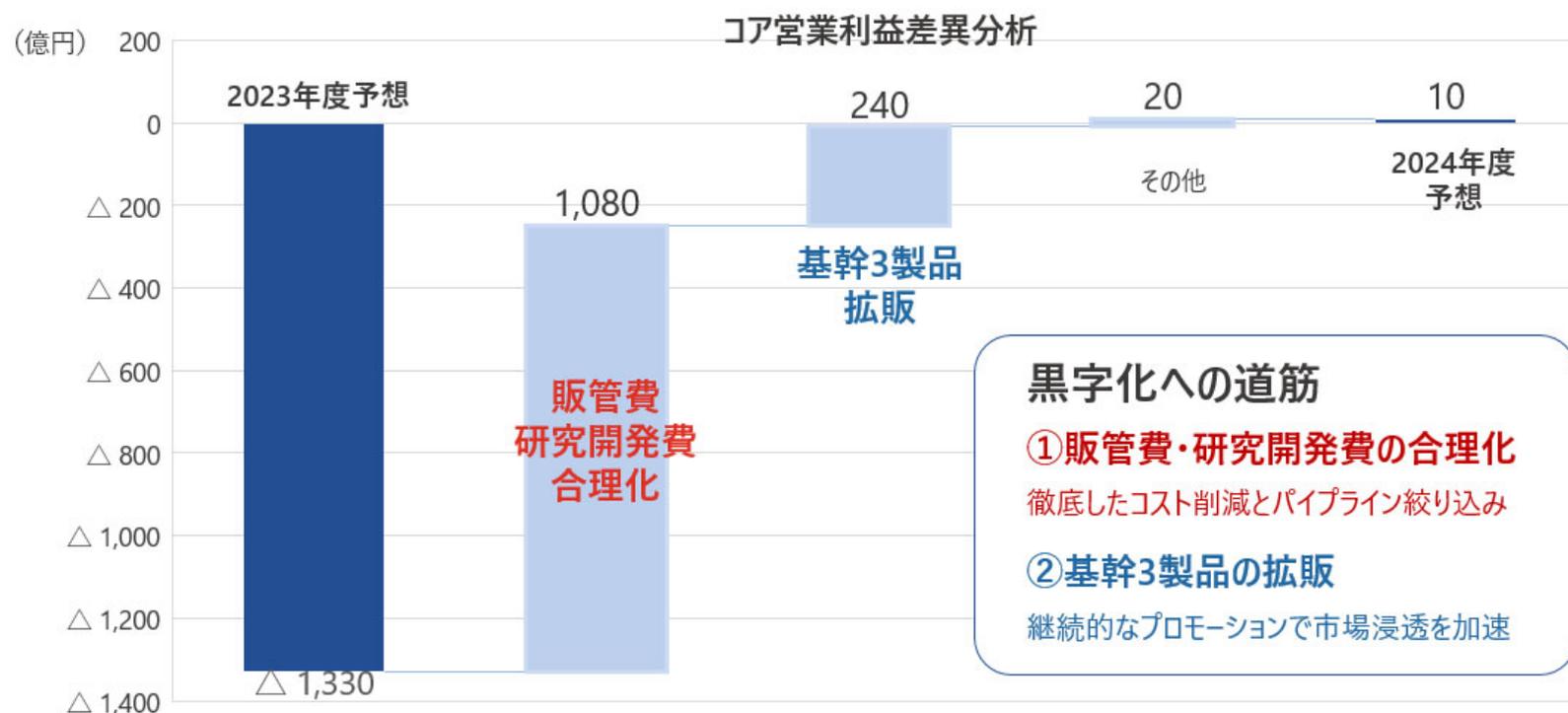
コア営業利益10億円を見込むものの、中期経営計画2027で想定したコア営業利益を大きく下回っていることから、無配を予定

2025年3月期業績見通し（コア営業利益）

住友ファーマ（2）：黒字化への道筋

住友化学

徹底した合理化と基幹3製品の拡販により、2024年度のコア営業利益黒字化を目指す



出典：住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料

2025年3月期業績見通し（販管費・研究開発費）

住友ファーマ（3）：徹底した販管費・研究開発費合理化の内訳

住友化学

北米では1,000億円以上のコストダウン。日本でも追加合理化を加速。

当社/企業再生専門チームの知見も融合させ、グループ一体で更なる改善への取り組みを加速



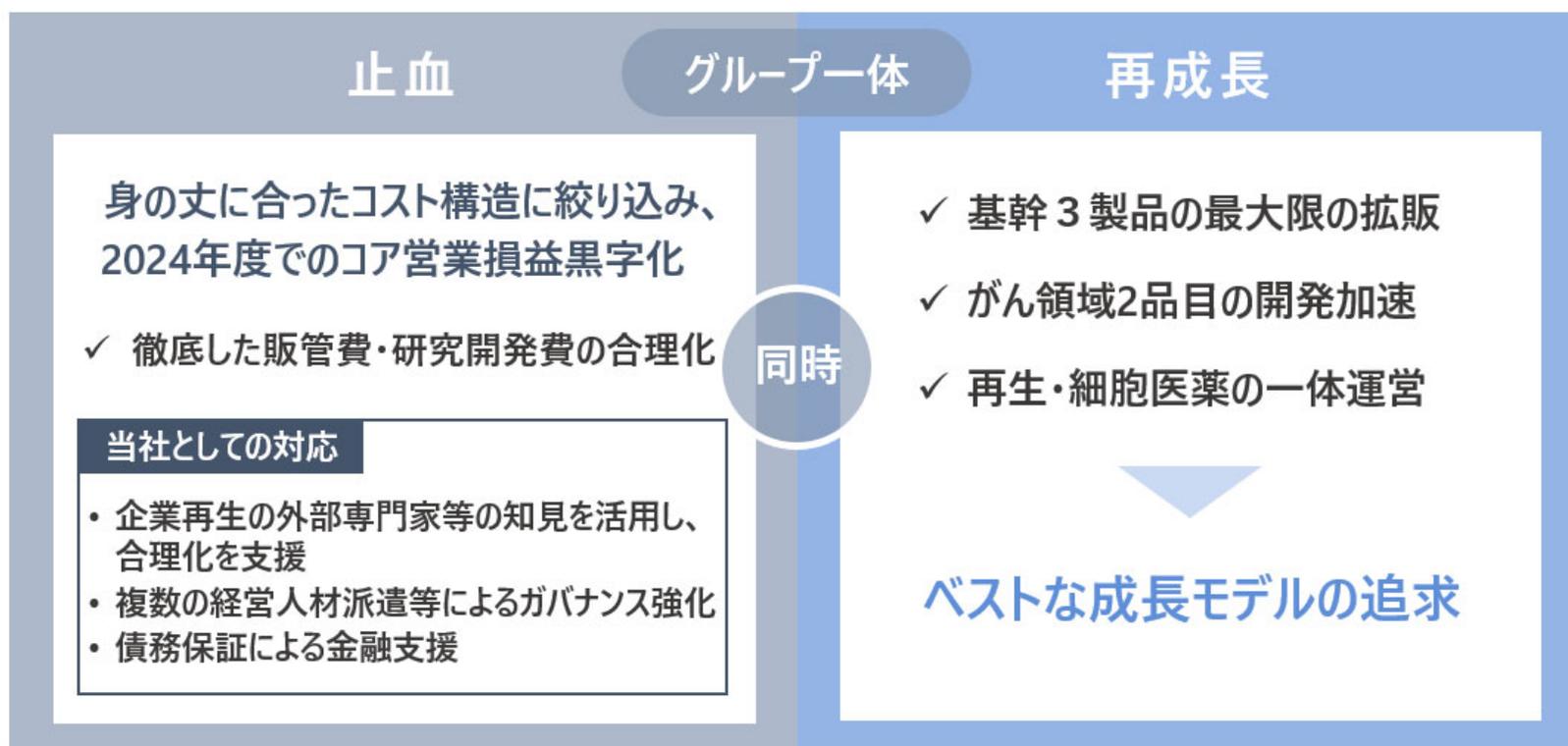
出典：住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料

■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（1）

再掲  住友化学

「速やかな止血」と「再成長に向けたあらゆる選択肢の追求」を同時に実行。

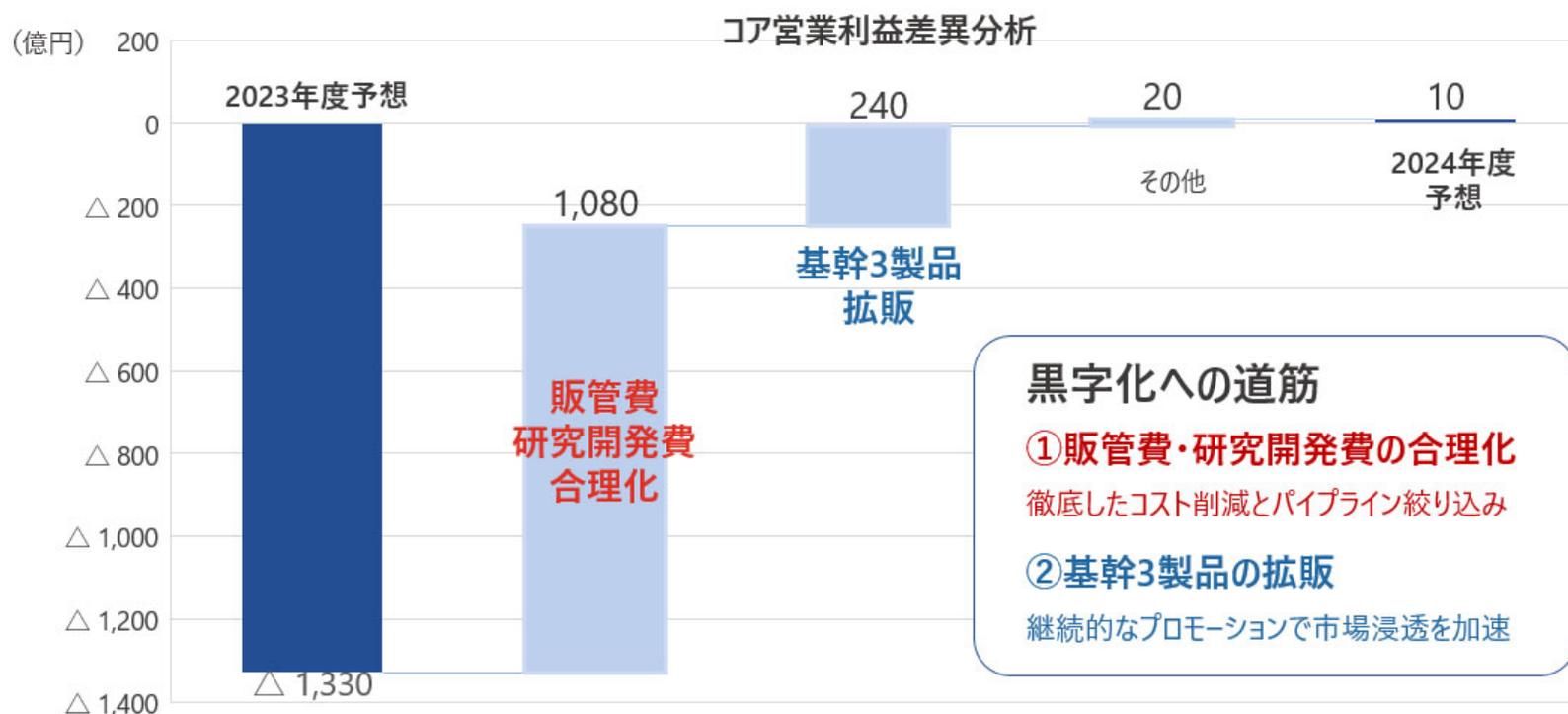


■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（2）：黒字化への道筋

住友化学

徹底した合理化と基幹3製品の拡販により、2024年度のコア営業利益黒字化を目指す



■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（3）：徹底した販管費・研究開発費合理化の内訳

住友化学

北米では1,000億円以上のコストダウン。日本でも追加合理化を加速。

当社/企業再生専門チームの知見も融合させ、グループ一体で更なる改善への取り組みを加速



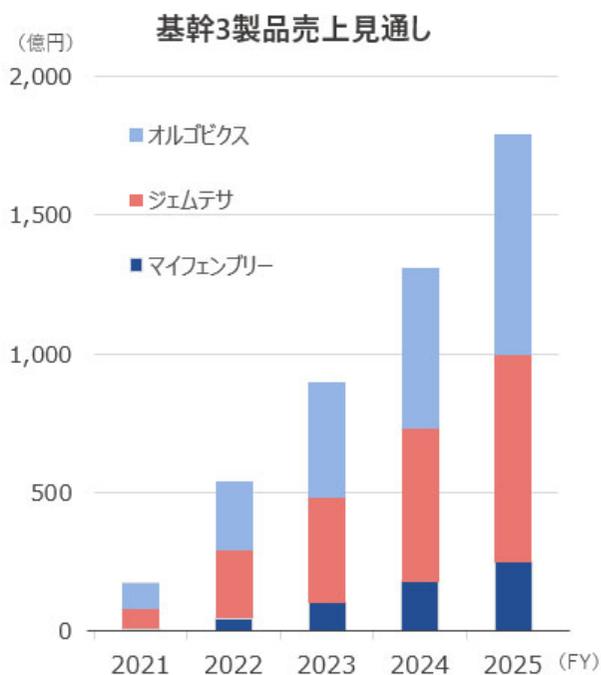
北米	2023年度期首 2,200人	2023/7 再編による リストラ	2024/3 追加 リストラ	2023年度末で、既に 約1,200人まで減少	2024年度末 1,100人
日本	2024年度中に一段の体制スリム化				

■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（4）：基幹3製品の拡販

住友化学

基幹3製品は着実に成長。更なるプロモーションで市場浸透を加速。



効能・安全性など製品の強みを市場へ継続的に訴求

製品名	適応症	2024年度の取り組み
オルゴビクス 	進行性前立腺がん	<ul style="list-style-type: none"> がん標準治療ガイドラインの改訂を活かした第一選択薬としての地位確立
ジェムテサ 	過活動膀胱	<ul style="list-style-type: none"> 高い安全性を活かしたジェムテサの差別化浸透 前立腺肥大症を伴う過活動膀胱への適応拡大に備えた適切なプロモーション
マイフェンブリー 	子宮筋腫 子宮内膜症	<ul style="list-style-type: none"> メディア広告強化による認知度の向上、GnRH市場の拡大

■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（5）：研究開発



ポテンシャルの高いがん領域2品目に研究開発リソースを集中

TP-3654

効能	骨髄線維症
特長	①がん細胞の増殖を抑制 ②標準療法より少ない副作用 ③標準療法との併用による大型化期待
開発予定	現在：フェーズ I / II 試験 （日本、米国） 上市予定：2027年度(日本、米国)

1,000億円規模のピーク売上を期待

DSP-5336

効能	急性骨髄性白血病
特長	①白血病細胞の増加を抑制 ②競合品に対する高い安全性
開発予定	現在：フェーズ I / II 試験 （日本、米国） 上市予定：2026年度(日本、米国)

500億円規模のピーク売上を期待

中長期的な収益基盤を支える成長ドライバーとして期待

■ご参考（住友化学株式会社 2024年4月30日開催 経営戦略説明会資料）

住友ファーマ（6）：再生・細胞医薬

住友化学

再生・細胞医薬の新会社設立、一体運営により事業化加速

当社グループの強み

- 1 iPS細胞の実用化で内外のフロントランナー
→世界初のiPS細胞由来製品の上市へ
- 2 日米双方で一貫した製造・販売・研究体制を構築済

- ・ 再生医療でしか達成できない新たな価値をグローバルに提供
- ・ 米国での治療薬開発に着手済、CDMO事業の米国進出も準備中

再生・細胞医薬の新会社設立

2024年度中の設立を計画・日米での展開加速



予定適応症	地域	開発状況・上市目標
小児先天性無胸腺症 <リサイミック>	米国	2022年3月上市済み
パーキンソン病 (先駆け審査 指定制度対象)	日本	2024年度中の承認取得に向け準備中
	米国	フェーズ1/2試験開始
網膜色素上皮裂孔	日本	フェーズ1/2試験中 ⇒2028年度上市目標

2027年度までに日本での事業を本格化させ、
2030年代にグローバルで1,000億円超の事業規模を目指す

